

添付資料 3

6 KUDの特微的な問題と対処方策  
(1) (Tani Mukti)

項目	特微的な問題	対処方策
1 総括 ・酪農振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育頭数、生産量とも頭打ち傾向にあり、酪農家の所得向上が見込めない</li> <li>・輸入乳牛の価格が高い</li> <li>・酪農家に乳牛導入資金がない</li> <li>・KUDの飼料配合施設が不十分で、濃厚飼料が量、質とも不足</li> <li>・酪農家の飼養技術が不十分</li> <li>・乳製品加工が行われていない</li> <li>・雄子牛の有効活用が行われていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高品質牛乳の生産拡大 優良牛の増頭、高品質濃厚飼料配合施設の整備、品質管理指導の徹底、乳牛導入資金の拡大</li> <li>・優良牛の管内生産 雌子牛育成施設の整備、雌子牛の買取・育成と成牛の供給</li> <li>・乳製品の製造販売 小規模乳製品加工施設の整備</li> <li>・管内出生乳雄子牛の肥育、販売 子牛肥育施設(肉牛)の整備</li> <li>・施設の効率運用対策 施設運用計画の策定 施設設置に当たり、近隣KUDと協議、共同利用の可能性を検討</li> </ul>
・企画機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画管理機能が弱く、積極的な事業展開ができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画管理部門の設置 参事の下に総務、酪農部門から1人ずつ選定して設置、内部監査も担当</li> </ul>
・加入推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農家以外の加入者が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人加入率50%を目指した加入促進5カ年計画の実施</li> </ul>
・貯蓄貸付事業分離対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダナモン銀行と提携し、貯蓄貸付事業を分離独立(独立事業組織UUOの設立)する計画があるがその功罪について十分検討されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画管理部門を設置し、組合員とともに以下の事項を検討 UUOとKUDの業務内容、機能分担 貸付事業の実施方法 KUDの事業資金調達方法 現存する延滞債権の処理方法</li> </ul>
・生活指導事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KUDは生活指導事業を行っておらず、組合員の生活改善が進んでいない</li> <li>・KUDの女性組織がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農家女性による共同購入組織の育成</li> <li>・生活店舗事業を通じた食生活改善、健康管理、衛生管理等の指導</li> </ul>
・野菜取扱計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜は管内の主要農産物であるがKUDは集荷販売を行っていない</li> <li>・KUDの指導体制が不十分</li> <li>・生産者グループは販売に関してKUDと関係を持っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者を配置し、野菜取扱中期計画を検討 当面、KUDの野菜取扱は困難であり、KUDの出荷・販売・指導体制のあり方、KUDと協力関係をもつ生産者組織の育成、資金対策について検討</li> </ul>
2 組織経営 ・加入金、義務貯金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入金、義務貯金を完納していない組合員が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入金、義務貯金完納5カ年計画の策定実践 未完納者を5カ年間で解消</li> </ul>

完納推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己資本が少なく、設備資金が不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の組合員訪問日を設定し集金義務貯金は毎月納入とされているが、年1回一括納入も認める</li> </ul>
コンピュータの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象業務が文書管理にとどまっており、事務処理の合理化が進んでいない</li> <li>コンピュータの知識を持った職員がいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ活用範囲の拡大、事務処理の正確迅速化</li> <li>対象は貯蓄貸付事業、乳代精算、給与計算</li> <li>州中央会、州監査連合会、PUSKUDの指導を受けてシステムを開発</li> <li>市販ソフトウェアの活用</li> <li>職員のコンピュータ研修への派遣</li> </ul>
3 経済事業 ・ 営農決済口座の開設	<ul style="list-style-type: none"> <li>組合員の営農決済口座が無く購買、販売の取引がすべて現金で行われている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営農決済口座を開設し、組合員の利便に供する</li> </ul>
4 貯蓄貸付事業 ・ 銀行取引の拡大 ・ 転貸資金への転換  ・ 貯金推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>BRI以外の銀行取引が少なく、運転資金の借入が十分できない</li> <li>現在の制度資金貸付はKUDに手数料が入る仕組みでありKUDのリスクも小さい。</li> <li>KUDに貸付のノウハウが蓄積されない</li> <li>資金需要があるにもかかわらず、原資が不足しているため対応できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BRI以外の銀行との取引を拡大し、新規事業開始のための運転資金、設備資金借入の路を開く</li> <li>制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収をKUDが直接行う転貸方式に変える</li> <li>積極的な貯金の推進</li> <li>電気料徴収を口座振替で行えるよう検討する</li> </ul>
5 人材育成 ・ 計画的職員研修の実施  ・ 給与体系の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基金の積立額が少なく、職員全体の研修ができない</li> <li>職員研修が計画的、継続的でなく、一部職員に偏っている</li> <li>給与が近隣の銀行に比べて低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基金の積立を増額し、研修費用を造成</li> <li>職員の外部研修への派遣</li> <li>職場内教育年間計画の策定</li> <li>技能に応じた給与体系に改める</li> </ul>
6 指導事業 ・ 営農指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>営農指導にかかる予算が少なく指導体制が不十分</li> <li>生産者部会との情報交換、意志疎通が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当期剰余金の処分により営農指導経費を確保</li> <li>営農指導担当者の試験場への派遣研修</li> <li>乳牛増頭計画に対応した営農指導体制の整備</li> <li>生産者組織リーダーと営農指導員を結ぶ無線放送施設の設置</li> </ul>

(2)

(Pasir Jambu)

項目	特徴的な問題	対処方策
1 総括 ・ 酪農振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育頭数、生産量とも減少傾向にあり、KUDの酪農関連</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優良牛の増頭、生産量の増加、品質向上対策</li> <li>乳牛導入資金の拡充、高品質濃厚飼料配合施</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業も停滞</li> <li>・酪農家も減少傾向</li> <li>・乳質低下による出荷量、販売額の減少</li> <li>・輸入乳牛の価格が高い</li> <li>・酪農家に乳牛導入資金がない</li> <li>・KUDの飼料配合施設が不十分で、濃厚飼料供給量が不足</li> <li>・へい死の発生等酪農家の飼養技術が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の整備、品質管理飼養指導の強化</li> <li>・優良牛の管内生産 <ul style="list-style-type: none"> <li>・雌子牛育成施設の整備、雌子牛の買取・育成と成牛の供給</li> </ul> </li> <li>・施設の効率運用対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設運用計画の策定</li> <li>・施設設置に当たり、近隣KUDと協議、共同利用の可能性を検討</li> </ul> </li> <li>・余剰乳の地元消費の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、事務所、工場との交渉</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜販売対策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KUDが行っているスーパーへの野菜販売は中継ぎ業務にとどまっている</li> <li>・スーパーの仕入れは規格、数量の条件が厳しく、参加できない農家が多い</li> <li>・農家の選別、包装技術が低い</li> <li>・スーパーへの販売参加者は少なく、それ以外に共同販売は行われていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「HERO」との販売量、価格交渉の強化</li> <li>・「HERO」向け野菜のKUDによる選別、包装指導の強化、品質向上指導の強化</li> <li>・野菜販売検討委員会の設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的視点から「HERO」以外への販売先（ホテル、病院等大口需要家）拡大、共同集荷所の設置、野菜生産農家の販売への参加促進対策を検討する</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯蓄の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由貯金の残高は1915万ルピアで総資産にしめる割合は0.7%にすぎず、停滞している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯金デーの増加設定、女性グループの協力を得た一斉貯金の呼びかけ</li> <li>・入学、結婚、電化製品、健康診断等目的貯金の呼びかけ</li> <li>・電気料徴収者からの貯金吸収</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員健康対策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通院費等の補助に充てられる「組合員福祉基金」への参加者は酪農組合員に限られており、組合員全体のものになっていない</li> <li>・健康診断の費用が15万ルピアと高く、受診者は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「組合員福祉基金」参加者の酪農家以外への拡大推進（注：他KUDにはみられない制度である）</li> <li>・剰余金処分による「社会基金」の一部を「組合員福祉基金」へ繰り入れ、基金を充実</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを導入しているが使用できる職員が少ない</li> <li>・対象が集乳管理、帳簿管理、文書作成にとどまっている</li> <li>・手作業で作成した集計結果の入力にとどまり、源データの直接入力が行われていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団検診の実施を検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・検診項目を限定し、費用を少なくするとともに、経費のKUD一部負担、費用に充てるための自由貯金を検討</li> </ul> </li> <li>・コンピュータ活用範囲を販売精算、貯蓄貸付事業に拡大し、事務処理の正確化、迅速化を推進</li> <li>・KUD総合会計システムを開発し部門別事業進捗状況を適時把握</li> <li>・州中央会、州監査連合会、PUSKUDの指導を受けてシステムを開発</li> <li>・市販ソフトウェアの活用</li> <li>・職員のコンピュータ研修への派遣</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2 組織経営</li> <li>・企画機能の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩な事業を展開しているが個人個人の発想や行動で事業が行われ、事業間の連携が弱い</li> <li>・新規事業の開発、野菜加工品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画管理部門の設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参事の下に企画管理部門を設置し、部門間の連携強化、新規事業、新商品の開発、販売先の開拓等を日常的に追求する</li> </ul> </li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>の開発、販売先の開拓が十分でない</li> <li>・加入率は、23%で未だ低水準である</li> <li>・電気料徴収者が7000人いるものの加入者は70人とどまっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組合員を講師として、乳製品、蒸製、米菓、手工芸品等管内で行われている伝統的な加工品の技術研修会を開催し、参加者の加入を推進</li> <li>毎月の電気料徴収時に加入を推進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>3 経済事業</li> <li>・営農決済口座の開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員の営農決済口座が無く現金取引が原則となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農決済口座を開設し、販売代金の全額貯金への受入と購買代金等の引き落としを実施し、組合員の利便に供する</li> <li>・コンピュータによる管理を検討する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>4 貯蓄貸付事業</li> <li>・銀行取引の拡大</li> <li>・転貸資金への転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行取引が少なく、事業拡大のための設備資金、運転資金の借入が十分にできない</li> <li>・現在の制度資金貸付はKUDに手数料が入る仕組みでありKUDのリスクも小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>銀行との接触を確立し、事業拡大に備えた借入能力を拡大</li> <li>制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収をKUDが直接行う転貸方式に変える</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>5 人材育成</li> <li>・教育活動長期計画</li> <li>・組合員教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員教育の体制は整っており担当理事が各年度計画を作成実施しているが、長期計画は無い</li> <li>・教育担当部署は未設置である</li> <li>・広報紙の発行（毎月1回）、酪農現地視察研修等を実施しているが、さらに組合員間の情報交換を充実する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動推進5カ年計画の策定実践</li> <li>個人別に能力向上目標を設定するとともに過去の研修受講歴と職務階層に基づいた教育計画を設定</li> <li>Inkubator計画の活用、銀行、保険会社、乳業会社、スーパーへの派遣研修の実施</li> <li>・人事教育研修課の設置</li> <li>・講習会、座談会開催年間計画の策定と定期的な実施</li> <li>・広報紙の増部と組合員紹介の実施</li> <li>・現有有線放送施設の拡充、活用</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>6 指導事業</li> <li>・営農指導の強化</li> <li>・生活指導の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農指導にかかる予算が少なく十分な指導ができない</li> <li>・生産者組織との情報交換、意志疎通が不十分</li> <li>・兼務者2名が生活指導を担当しているが体制が十分でない</li> <li>・生活指導の内容が限定されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営農指導経費の確保</li> <li>・野菜生産者組織を通じた生産技術の全体的向上と標準化</li> <li>・営農指導担当職員の試験場派遣研修、能力向上</li> <li>生活指導部門の設置</li> <li>・指導内容を法律、税金、家族計画、消費生活相談にも拡大</li> </ul>

(3)

(Walatra)

項目	特徴的な問題	対処方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 総括</li> <li>・野菜販売対策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有数の野菜産地であるが、KUDの取扱はスポット的な輸出にとどまっている</li> <li>・組合員は郡内やバンドンの集荷業者に出荷し、不利な販売を余儀なくされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜販売促進検討委員会の設置</li> <li>PKL, PPLの協力を得て役職員による野菜販売促進検討委員会を設置し、以下の事項を検討する</li> <li>販売ルートの確保、品質の向上、保管・輸送対策、包装・加工対策</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャガイモの生産加工対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員はKUDの取扱を希望しているが、KUDには資金倉庫、輸送手段等取扱体制が整っていない</li> <li>・ジャガイモが基幹作物であり組合員の20～25%が生産しているが、KUDは輸出用以外扱っていない</li> <li>・集荷業者に対し価格上の不満を持っている</li> </ul>	<p>中央市場の開設 共同集荷所の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売対策に情熱と責任をもつ職員の育成</li> <li>・生産者組織の規約、選果基準の制定</li> <li>・中規模ジャガイモ加工施設の設置、冷凍保存施設等の併設</li> <li>・組合員から原料ジャガイモの買付</li> <li>・スティック、フィンガー、チップ、粉への加工販売</li> <li>・優良種子（国立園芸試験場が開発した種子）の普及</li> <li>・将来技術的に可能になった場合にはKUDが種子の生産を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産加工技術の普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管内では、キャラメル、伝統的なポテトチップ、各種菓子類が生産されているが商品化されているものは一部にとどまっている</li> <li>・KUDは女性の手工芸グループを貯蓄貸付事業で支援しているがグループ参加者は100人程度にとどまっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員の家族である女性を中心に加工品製作グループを育成し、相互に技術を交流する場をつくる</li> </ul> <p>KUDは組合員が集まり実際に加工品づくりを行う場所の提供、指導者・講師の選定、加工用機材の貸与、加工品コンテスト等を行う</p> <p>将来、商品化が可能と判断された場合には郡内のTPK等で販売を行い、売れ行きの良いものが出た場合には少しづつ生産量を増やす</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯蓄貸付事業の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員への貸付はKUTを中心にした制度資金がほとんどで、貯金を原資にした貸付は少ない</li> <li>・相互金融グループが多数存在するなど、組合員の資金需要は大きい、KUDは十分な対応ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性による貯金者グループの育成</li> <li>・フィトリに備えた貯金など目的を明確にした自由貯金の創設と推進</li> <li>・貯金者を対象にした行事（抽選会など）の実施</li> <li>・優良グループに対する表彰</li> <li>・貯金を原資にした小口事業資金の創設と貸付</li> <li>・事務事故の防止と管理・回収のため貯蓄貸付事業取扱体制を整備</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2 組織経営</li> <li>・加入金、義務貯金の完納推進</li> <li>・組合員に対する配当の実施</li> <li>・会計区分の明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入金、義務貯金とも完納している組合員は1100人程度で組合員の24%程度にすぎない</li> <li>・クロンボクタニが留保している加入金、義務貯金が存在する</li> <li>・1994年以降総会決議により組合員への配当を実施していない。組合員から不信を招くおそれがある</li> <li>・貯金、加入金、義務貯金につきクロンボクタニとKUDのどちらの会計に属するのか不明瞭な部分がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回巡回実施しているクロンボクタニでの貯蓄貸付事業営業時に納入を呼びかける</li> <li>・KUDに属すべき加入金、義務貯金のうちクロンボクタニが留保している部分については、クロンボクタニと協議の上、KUD会計に組み込む</li> <li>・1997年以降、当期剰余金が発生した場合には、定款に規定に基づき配当を行う</li> <li>・KJAの指導を得て、クロンボクタニと協議の上、KUDに一元化するかクロンボクタニ帰属部分を残すかいずれかを選択し、継続的な会計処理を行う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>3 経済事業</li> <li>・営農決済口座の開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員の営農決済口座が無く現金取引が原則となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農決済口座を開設し、販売代金の全額貯金への受入と購買代金等の引き落としを実施し、組合員の利便に供する</li> </ul>

設		・コンピュータによる管理を検討する
4 貯蓄貸付事業 ・転貸資金への転換 ・貸付業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の制度資金貸付はKUDに手数料が入る仕組みでありKUDのリスクも小さい。</li> <li>・KUDにノウハウが蓄積されない</li> <li>・KUT貸付に当たりその10%を自由貯金に強制的に受け入れているが、返済にマイナスの影響がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収をKUDが直接行う転貸方式に変える</li> <li>・借入先金融機関によるKUD職員の貸付業務研修への援助</li> <li>・貸付金の一部を強制的に貯金に受け入れる場合は、貸付総額の5%以内とする</li> <li>・貸付手続の簡素化、迅速化</li> </ul>
5 人材育成 ・教育活動 長期計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯蓄貸付事業、販売事業担当職員が少なく、事業発展が困難</li> <li>・職場内研修の担当部署が無く計画的な教育研修が行われていない</li> <li>・インストラクターとしての幹部職員がいない</li> <li>・組合員教育は行われていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動推進5カ年計画の策定実践</li> <li>職員採用計画</li> <li>貯蓄貸付事業、販売事業担当職員の養成</li> <li>組合員教育計画、リーダー育成</li> <li>個人別能力向上目標の設定、職務階層別教育計画</li> <li>職場内教育インストラクターの養成</li> </ul>
6 指導事業 ・営農指導の強化 ・生活指導の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農指導員が3人いるが、対象組合員に比べ少ない</li> <li>・生活指導担当者はおらず、積極的に生活指導を展開する意向もない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営農指導担当職員、生産者部会リーダーの育成</li> <li>・生産者部会の育成指導</li> <li>・生活活動実施計画の策定と生活指導員の養成</li> <li>・女性組織育成とあわせた生活指導の実施</li> <li>・県段階に農産加工研修施設の設置</li> </ul>

(4) (S i p a t u w o)

項目	特徴的な問題	対処方策
1 総括 ・米穀の加工販売、 稲作振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米施設のうち1式は老朽化が進み更新が必要</li> <li>・乾燥、保管、精米各施設のバランスがとれていない</li> <li>・原料米買付資金の不足</li> <li>・組合長の人格はすばらしいが新規事業への積極姿勢がない</li> <li>・米の自由市場への販売に積極的でない</li> <li>・豆類、雑穀の加工販売が行われていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精米施設の更新、複合米処理センターの設置</li> <li>現存精米所の転換、碎米等規格外品の発生縮減、雑穀加工の実施、</li> <li>効率的なRMU、精米機、粳乾燥場、袋詰め設備、倉庫(粳、米、米糠、トウモロコシ、肥料の保管)、輸送手段を併設</li> <li>・碎米、トウモロコシ、大豆、緑豆、その他雑穀の製粉加工</li> <li>・製菓事業の開始</li> <li>・榎集荷センターを農家に近い場所に設置</li> <li>・自由市場、PUSKUD、地元、私企業に余剰米の販路拡大</li> <li>・運転資金の確保</li> <li>・小規模養鶏経営向け小口営農資金の創設</li> <li>・配合飼料供給実施のためのPUSKUDとの事業システムの構築</li> </ul>
・小規模養鶏経営の普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KUDは周辺の農民が養鶏を始めても事業化の動きを見せていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米現物貯金の実施</li> <li>・小規模養鶏経営向け小口営農資金の創設</li> <li>・配合飼料供給実施のためのPUSKUDとの事業システムの構築</li> </ul>
・米現物貯金の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KUDの自由貯金が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米現物貯金の実施</li> <li>・100kg/1haの現物自由貯金の実施</li> </ul>
・有能な職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい事業に取り組むには若</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有能な職員の採用と養成</li> </ul>

<p>員の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郡KUD協議会の設置</li> <li>・組合員組織の育成</li> </ul>	<p>い職員の採用、教育訓練が望まれる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の人口は少なく、全員が加入した場合でも施設や事業規模の拡大には限界がある</li> <li>・管内には畜産女性のグループがあり「鶏そぼろ」を製造しているがそのほかには組合員組織はなく、新たな事業展開には各種協力組織の育成が必要</li> </ul>	<p>施設運営のみならず営農指導もできる人材の採用、教育訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郡内5KUDによる協議会の設置 米集荷対策、販売対策、精米施設の更新、銘柄米の確立、資金対策等について定期的に協議 協同組合小企業省の指導</li> <li>・トラクター共同利用グループの育成</li> <li>・鶏卵生産者組織の育成</li> <li>・貯金者組織の育成</li> <li>・女性加工組織の育成 米菓、鶏肉加工食品、手工芸品を製作し、当面は地場消費に向け、将来商品化を目指す 技術を持った組合員の協力で講習会を開催し技術を普及</li> </ul>
<p>2 組織経営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己資本の充実</li> <li>・事務処理体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金不足のため、米の集荷販売事業で民間業者に遅れをとっている</li> <li>・固定資産の額が自己資本を大幅に上回っており、財務に問題がある</li> <li>・組合員別の義務貯金の納入すべき額と納入済額が不明である等事務処理が不十分である</li> <li>・肥料の原価管理が不十分で、利益率が低下している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入金1口金額、義務貯金月額引き上げ 加入金1,000を10,000ルピアに 義務貯金月額100を1,000ルピアに</li> <li>・加入金、義務貯金の確実な納入 払込方法を明確にした納入同意書の徴求 個人別納入状況の明確化 義務貯金の一括納入等納入方法の検討</li> <li>・当期剰余金を原資にした目的積立の実施 籾乾燥場、精米機、トラックの購入</li> <li>・事務処理の確実な実行 日々の処理、月末処理</li> <li>・肥料の原価管理の徹底、適正な供給価格の設定</li> </ul>
<p>3 経済事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養鶏場の設置</li> <li>・飼料配合施設の設置</li> <li>・農業サービスセンターの開設</li> <li>・営農決済口座の開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型養鶏は農家の副業として実施しやすく、増大しているがKUDの支援がない</li> <li>・地元の稲作・精米によって発生するコメ糠の有効活用しやすいがKUDの事業として関与が少ない</li> <li>・小型ハブトラクターの導入が活発である。州政府クレジットなどにより大量導入されている。KUDは補修サービス実施していない</li> <li>・組合員の営農決済口座が無く現金取引が原則となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養鶏場の設置 地元資金を動員して設置 飼料は精米所で製造 販売は地元業者、私企業と提携してすすめる</li> <li>・飼料配合施設の設置 米糠、碎米、大豆、雑穀を経済的に活用</li> <li>・農業サービスセンターの設置 農機具の保守サービス、輸送サービスを実施</li> <li>・営農決済口座を開設し、販売代金の全額貯金への受入と購買代金等の引き落としを実施し、組合員の利便に供する</li> </ul>
<p>4 貯蓄貸付事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貯金の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯金残高の水準が低く、自由貯金は総資産の2.9%にすぎない</li> <li>・事業をのぼすためには資産を増やす必要があり、貯金の推進が必要</li> <li>・貯金に利息を付けていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貯金の推進目標の設定</li> <li>・肥料供給に連動した貯金、米の現物貯金</li> <li>・女性グループを通じた貯金推進</li> <li>・コンテストの実施、賞品の提供 奨学金、家族健康保険、テレビ、農機具（噴霧器）</li> <li>・市場金利並の金利設定</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>貯蓄貸付事業の独立</li> <li>転貸資金への転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>め貯金が増加しない</li> <li>独自資金による貸付は貸倒損失が200万ルピアに上ったため中止され現在は行っていない</li> <li>現在の制度資金貸付はKUDに手数料が入る仕組みでありKUDのリスクも小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貯蓄貸付事業を独立事業単位として経営</li> <li>BRI、DANAMON、PUSKUDからの資金提供</li> <li>貸付に強制貯金を組み込み、徐々に貯金と利益で事業ができるようにする</li> <li>会計、業務マニュアルの分離</li> <li>制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収をKUDが直接行う転貸方式に転換</li> <li>銀行主導でKUD職員に貸付業務研修を実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>5 人材育成</li> <li>教育研修の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基金が著しく不足</li> <li>職員教育計画がない</li> <li>職場内研修担当者が明確でなく、計画的な教育研修が行われていない</li> <li>役員の仕事管理能力研修が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の研修機関派遣</li> <li>教育基金の積立</li> <li>貯蓄貸付事業経験者の採用</li> <li>人材育成長期計画の策定</li> <li>貯蓄貸付事業担当職員の先進KUD派遣研修</li> <li>農機具修理担当職員の養成</li> <li>州段階農機具修理研修施設の設置</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>6 指導事業</li> <li>営農指導の強化</li> <li>生活活動推進センターの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事2名と職員2名が営農指導を担当しているが専門職でなく技術水準も十分でない</li> <li>特に養鶏指導、鶏卵販売の指導が求められている</li> <li>生活指導は理事2名が担当、担当職員はいない</li> <li>組合員は生活指導を求めてお指導体制の強化を望んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営農指導費用のKUD予算による負担</li> <li>営農指導担当者の雇用</li> <li>試験場、ポストハーベストセンターへの派遣研修</li> <li>生活活動推進センターの設置</li> <li>簡易農産加工施設の併設</li> <li>鶏肉加工以外の農産加工グループの育成</li> <li>健康問題、商品知識、生活設計指導の実施</li> </ul>



(5)

(Semangat)

項目	特徴的な問題	対処方策
1 総括 ・米穀販売 事業の強 化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合長が精米事業を積極的に進めようとの意向を持つ</li> <li>・精米施設増改築資金、原料米買付資金が不足、</li> <li>・トラックが不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精米等施設の整備（下記複合精米センター）改良型精米機の新規導入</li> <li>原料米、精米倉庫の増強</li> <li>・自由米市場への販路拡大</li> <li>・製粉加工事業、製菓事業の実施</li> <li>碎米、豆類、雑穀の製粉加工、販売</li> <li>・米営農指導員の養成</li> <li>・精米技術者の養成</li> <li>・営農決済口座の開設</li> <li>・農家営農台帳の整備</li> <li>・トラックを導入し輸送力を強化</li> <li>米、肥料、輸送力の強化</li> <li>糞その他農産物の集荷、肥料等生産資材の配達</li> </ul>
・輸送力の 強化		
・養鶏の奨 励	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作地帯でKUDが精米を行っている状況にあるが、職員も少ない状況のため飼料・養鶏事業にほとんど直接関与していない。精米施設の生産性の向上にともない副産物処理を考える必要が出てくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精米所副産物の米糠を活用した養鶏奨励</li> <li>PUSKUD等への配合飼料、鶏卵販売</li> <li>・女性による副業的加工事業の振興</li> <li>女性リーダーを発掘し、組織化</li> <li>*複合精米センターの更新設置</li> <li>・効率のよいRMU、米精白機、初乾燥場、米袋詰め設備、倉庫、輸送手段の設置</li> <li>・小売店舗の併設</li> <li>・製粉機の設置</li> <li>碎米、緑豆、大豆を加工し、農民の菓子原料として供給</li> <li>・副産物利用のため飼料混合プラントを併設</li> </ul>
・転貸資金 への転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の制度資金貸付はKUDに手数料が入る仕組みであり、KUDのリスクも小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収をKUDが直接行う転貸方式に切り替えていく</li> <li>・貯蓄貸付事業担当者の養成</li> </ul>
・自己資本 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産の額が自己資本を大幅に上回っており財務上問題</li> <li>・設備資金、運転資金が不足し、94、95、96年度とも剰余金の処分、配当を実施せず全額を繰り越して自己資本として利用している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当期剰余金の増加努力による内部積立の増額</li> <li>・加入金1口金額、義務貯金月額引き上げ</li> <li>加入金 1,000を10,000ルピアに</li> <li>義務貯金月額100を1,000ルピアに</li> <li>・加入金、義務貯金の確実な納入対策</li> <li>地区別座談会で納入同意書を徴求</li> <li>義務貯金未納額の集金</li> <li>義務貯金の一括納入制度の導入</li> </ul>
・郡KUD 協議会の 設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の人口は少なく、全員が加入した場合でも施設や事業規模の拡大には限界がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郡内5KUDによる協議会の設置</li> <li>米集荷対策、販売対策、精米施設の更新、銘柄米の確立、資金対策等について定期的に協議</li> <li>協同組合小企業省の指導</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ K J A 監査の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内部監事制度を廃止している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ K J A 監査の徹底</li> <li>・ K U D の健全な発展を目指すため、監査を徹底</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2 組織経営</li> <li>・ 組合員増加対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加入率は 26%にとどまり、未加入農家も 35%ある</li> <li>・ 組織力が不十分なため事業が伸びない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加入率 60%を目指した組合員増加 5 カ年計画の策定実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務処理体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気料徴収事業において、徴収が確実に行われず、電力会社への支払額が、徴収額を上回っている</li> <li>・ 職員に給与が月々決まって支払われていないことも職員の労働意欲を減退させている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介パンフレットの作成、全家庭に配布</li> <li>・ 役職員別担当地区の設定</li> <li>・ パンフレットの配布、強制貯金の集金、クロンボクタニ会合への出席と説明</li> <li>・ 地区別に組合員増加協力組合員を選定</li> <li>・ 創立記念日記念集会の実施</li> <li>・ 記念講演、地場産品の展示即売会を実施</li> <li>・ 職員教育訓練の徹底による事務処理体制の確立</li> <li>・ 給与の定期的支払いによる、労働意欲の向上</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>3 経済事業</li> <li>・ 農業サービスセンターの開設</li> <li>・ 営農決済口座の開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲作農家のハトトリカ-の導入が増大している</li> <li>・ 組合員の営農決済口座が無く、現金取引が原則となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業サービスセンターの設置</li> <li>・ 農機具の保守サービス、輸送サービスを実施</li> <li>・ 営農決済口座を開設し、販売代金の全額貯金への受入と購買代金等の引き落としを実施し、組合員の利便に供する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>4 貯蓄貸付事業</li> <li>・ 貯金の推進</li> <li>・ 貸付事業の強化</li> <li>・ 転貸資金への転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由貯金の残高がきわめて少ない</li> <li>・ 借入資金を増やし事業をのばすためには資産を増やす必要があり、貯金の推進が必要</li> <li>・ 貯金に利息を付けていないため貯金が増加しない</li> <li>・ 独自資金による貸付は貸付残高が少なく利益も少ない</li> <li>・ 現在の制度資金貸付は K U D に手数料が入る仕組みであり、K U D のリスクも小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別組合員の募集</li> <li>・ 公共機関、民間からの投資（優先配当、議決権なし）</li> <li>・ あらゆる事業開発計画に連動した強制的な貯金の吸収</li> <li>・ 市場金利並の金利</li> <li>・ 1 h a あたり米 1 袋の現物貯金の検討</li> <li>・ 女性の貯金者グループの育成</li> <li>・ 独自資金による貸付金の 1 2. 5 倍化</li> <li>・ P U S K U D からの資金供給</li> <li>・ 貸付事務の迅速化</li> <li>・ 制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収を K U D が直接行う転貸方式に転換</li> <li>・ 適正な貸付金利の実施</li> <li>・ 貸付管理費用、確実な利益をもたらす水準</li> <li>・ 技術研修による貸付管理能力の改善</li> <li>・ 貸付先の選別、実行、管理、回収</li> <li>・ B R I は研修を引き受け、K U D は費用を負担</li> </ul>

<p>5 人材育成 ・教育研修の強化 ・職員雇用基金の創設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任の職員がおらず、年齢も高い</li> <li>・貯蓄貸付事業担当職員がいない等職員が不足し</li> <li>・若い職員の確保が必要</li> <li>・定期的に給与が支払われていない</li> <li>・給与体系が作成されていない長期間で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育基金積立て職員の外部派遣研修を実施</li> <li>・長期計画による職員確保</li> <li>・組合員の先進地視察研修の実施</li> <li>・組合員座談会の実施による協同組合の啓蒙 KANWILKOPのイニシアチブで職員雇用基金を創設 政府機関の補助により基金造成 5年分の給与をKUDに貸し付け、返済させる仕組み</li> </ul>
<p>6 指導事業 ・生活指導事業の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導は行っておらず担当職員はいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導担当者の配置</li> <li>・農家女性を対象にした先進地視察研修の実施 そのための目的貯金の実施</li> <li>・外部講師による生活向上セミナーの実施</li> <li>・徐々にリーダーを養成し女性組織を育成する</li> </ul>

項目	特徴的な問題	対処方策
1 総括		
・換金作物の一次加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ココア、カシューナッツ、ロタン等組合員が生産する換金作物は多いが、KUDは加工販売を行っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・換金作物の一次加工、販売の実施 KUDがココア、カシューナッツ、ロタンの一次加工を行い販売 カシューナッツの加工は手作業で実施</li> </ul>
・肉牛肥育施設の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水牛が減少し、今後需要増が期待される肉牛の導入が行われていない</li> <li>・飼料供給、肉畜の導入や販売にKUDは関与していない</li> <li>・KUDは肉牛の飼養管理技術指導ができない</li> <li>・子牛導入資金制度がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉牛肥育施設の設置 KUDが設置し組合員の共同利用に供する</li> <li>・肉牛一貫体系の確立 素牛導入、飼料供給、肥育牛販売まで一貫してKUDが関与 近隣公社牧場(P.T. Berdikari)との連携をはかる</li> <li>・配合飼料混合施設の併設</li> <li>・飼料供給、換金作物加工品の販売はPUSKUDとの事業、技術連携を密にして進める</li> </ul>
・精米販売事業の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精米事業は停滞しており、再検討の必要がある</li> <li>・RMU2施設、トラック3台を有しているが補修管理が悪くほとんど稼働できない</li> <li>・KUDの協力精米所(Mitra)がKUDの支配権を巡って激しく競争している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同組合小企業省が主導している精米加工・販売事業(PMU)へ参加 PUSKUDのライスセンターと集荷、精米、保管調整を行う</li> <li>・KUDは現有遊休精米等施設、機器の移転等の処置を行う</li> </ul>
・作目別生産者組織の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員のKUD利用額が少ない</li> <li>・KUDの協力組織が無く、事業内容が組合員に浸透していない</li> <li>・同じ品目の生産者同士が専門的な情報の交換を行う場がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉牛、カシューナッツ等作目別生産者組織の育成 KUDからの情報提供、組合員同士の情報交換、KUDと組合員の連絡の緊密化 PPL、PUSKUD、技術の優れた組合員の協力による市場、価格、生産資材、技術等の情報提供</li> <li>・取扱が可能になった場合にはKUDが集荷、販売を行う</li> </ul>
・貯蓄貸付事業取扱体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由貯金が年々減少している</li> <li>・貸付金は運用資産の24%にすぎず内容は制度資金中心である</li> <li>・貸付先も少なく、貯蓄貸付事業の機能を発揮していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の複数配置による体制整備 参事による点検の強化および複数配置による内部牽制組織の確立</li> <li>・職員教育の強化による高度な事務処理能力の具備 貯金受入、貸付審査・実行・回収手続等</li> <li>・教育、電気製品、フィトリ準備等目的貯金の創設</li> <li>・女性貯金グループの育成</li> <li>・小口事業資金の創設</li> </ul>
・生活活動推進センターの設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導を行っておらず、担当者もいない</li> <li>・女性組織もない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活活動推進センターの設置と簡易農産加工施設の併設</li> <li>・女性グループの活動として加工品の製作講習会</li> </ul>

<p>置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ K J A 監査の徹底</li> </ul>		<p>を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 州段階に農産加工研修施設を設置</li> <li>・ 生活指導担当職員の配置、外部研修への派遣</li> <li>・ 政府主導女性組織と協力し、健康管理、商品知識、生涯設計等生活指導を実施</li> </ul> <p>K J A 監査の徹底</p> <p>K U D の健全な発展を目指すため、監査を徹底</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2 組織経営</li> <li>・ 総会の民主的運営</li> <li>・ 職員給与の定期的支給</li> <li>・ 郡 K U D 協議会の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総会への出席者は 6 5 人（組合員の 1. 8 %）にすぎず、地区別の事前総会も行われていない</li> <li>・ 職員給与、手当の遅配が多く毎月決まった額が支給されていない</li> <li>・ 役員は、職員は農家収入があるので問題はない、との認識である</li> <li>・ K U D はドゥアピトゥエ、ピトゥリアセ両郡にまたがっているが、両郡には 6 K U D があり、組合員、職員数が少なく資金不足から事業実施能力が低い K U D が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区別に事前総会を開催し、議案説明と質疑を行い、組合員の意思を反映した運営を行う</li> <li>・ 職員に対する給与、手当の毎月支払いを実施し労働意欲を向上させる</li> <li>・ 業務に専念できる有能な職員の採用</li> <li>・ 専念できない職員は臨時とし、業務の中心から除外</li> <li>・ 両郡 6 K U D による協議会の設置</li> <li>・ 資金対策、販売対策、施設対策の協議</li> <li>・ 協同組合小企業省、P K L、P P L、県中央会の指導</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業サービスセンターの設置</li> <li>・ 営農決済口座の開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲作農家の A V T トラクターの導入が増えている</li> <li>・ 組合員の営農決済口座が無く現金取引が原則となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業機械、自動車の保守サービス、種子、化学肥料、農薬の供給および農業教育と指導を実施</li> <li>・ 営農決済口座を開設し、販売代金の全額貯金への受入と購買代金等の引き落としを実施し、組合員の利便に供する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>4 貯蓄貸付事業</li> <li>・ 貯金の推進</li> <li>・ 貯蓄貸付事業の分離独立</li> <li>・ 転貸資金への転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由貯金の残高がきわめて少ない</li> <li>・ 借入資金を増やし事業をのばすためには資産を増やす必要があり、貯金の推進が必要</li> <li>・ 独自資金による貸付は貸付残高が少なく利益も少ない</li> <li>・ 現在の制度資金貸付は K U D に手数料が入る仕組みであり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別組合員の募集</li> <li>・ 公共機関、民間からの投資（優先配当、議決権なし）</li> <li>・ あらゆる事業開発計画に連動した強制的な貯金の吸収</li> <li>・ 市場金利並の金利を付ける</li> <li>・ 1 h a あたり米 1 袋の現物貯金の検討</li> <li>・ 女性グループを通じた貯金推進</li> <li>・ コンテストの実施、賞品の提供</li> <li>・ テレビ、オートバイ、ステレオ機器、奨学金</li> <li>・ 独自資金による貸付金の 3 倍化</li> <li>・ 貯蓄貸付事業の分離、独立事業化</li> <li>・ 会計も分離する</li> <li>・ 貸付手続の規格化、簡素化、迅速化</li> <li>・ 制度資金の仕組みを、貸付先の選定、貸付金の管理、回収を K U D が直接行う転貸方式に変え</li> </ul>

	KUDのリスクも小さい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な貸付金利の実施 貸付管理費用、確実な利益をもたらす水準</li> <li>技術研修による貸付管理能力の改善 貸付先の選別、実行、管理、回収</li> <li>BRIは研修を引き受け、KUDは費用を負担</li> </ul>
5 人材育成 ・教育研修 の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員全体の研修を推進するには教育基金が不足している</li> <li>職員教育計画はなく、職場内研修担当者も明確になっていない</li> <li>職員が少なく、臨時職員でまかなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育基金の確保</li> <li>集中的な外部研修への派遣により、正職員、臨時職員の資質向上</li> <li>個人別に能力向上計画を作成、実践</li> <li>職場内教育年間計画の策定実施</li> <li>適正な給与体系の設定実施</li> </ul>
6 指導事業 ・営農指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>KUDに営農指導員を配属する計画はなくPPL任せになっている</li> <li>畜産農家は近隣の公社牧場の技術者に頼らざるを得ない状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>獣医資格者採用のための経費の準備</li> <li>畜産試験場、公社牧場、ポストハーベストトレーニングセンターと協力して営農指導員の研修を進める、また、情報提供、畜産農家の研修への協力を求める</li> </ul>

添付資料 4

モデルKUD施設計画一覧

事業評価結果総括表

事業計画	FIRR(%)				事業費 (RP1,000)	期待される開発効果		
	基本	ケース1	ケース2	ケース3		国レベル	地方レベル	KUD/農家レベル
1. KUD TANI MUKUTI 1.1 全体事業 1.2 小型乳製品加工施設整備計画 1.3 乳雄肥育・乳雌育成施設整備 1.4 配合飼料施設整備計画	5.6 4.1 6.7 2.6	4.9 2.8 6.2 1.6	4.8 2.8 6.1 1.7	4.1 1.4 5.6 0.7	6,405,180 2,098,000 3,309,000 998,180	a.増加する牛乳、乳製品の国内需要に対する供給面からの貢献 b.畜産振興政策の支援	a.ジャカルタ、バンドン等の主要都市部への牛乳及び乳製品の供給増大による地域経済の振興 b.配合飼料の生産・供給増大による畜産物生産性の向上	a.組合農家数: 5,590戸 b.酪農農家数: 700戸 c.牛乳、乳製品及び肉質の品質改善によるKUD事業の促進と経営の改善及び組合員農家の収入向上 d.集乳等の農村女性の就業機会の拡大
2. KUD PASIR JAMBU 2.1 全体事業 2.2 乳雌育成施設整備計画 2.3 配合飼料施設整備計画	3.8 4.4 2.6	3.3 4.1 1.7	3.2 3.7 1.6	2.7 3.4 0.7	1,730,180 732,000 998,180	a.増加する牛肉消費に対する供給面からの貢献 b.畜産振興政策の支援	a.肉牛育成・生産増大による地域経済振興への寄与 b.配合飼料の生産・供給による畜産物の生産性の向上への寄与	a.組合農家数: 5,882戸 b.酪農農家数: 1,242戸 c.乳雄の育成・販売促進による畜産資源の有効利用、KUD事業の活性化と組合員農家の収入向上 d.農村女性の生産活動への参加促進
3. KUD WALATRA 3.1 ジャガイモ加工処理施設整備計画	5.3	4.8	4.7	4.2	7,083,000	a.小規模零細農家支援	a.地域における小規模農家支援	a.組合農家数: 4,360戸 b.野菜生産農家数: 4,000戸 c.ジャガイモの加工による市場価格変動への対応、付加価値の向上によるKUD事業及び生産農家の経営の安定化
4. KUD SIPATUWO 4.1 精米加工施設 + 破砕米・雑穀加工施設整備計画	6.1	5.3	5.3	4.5	4,586,335	a.主食である米の安定供給の促進 b.品質(食味)の改善による良質米の生産及び供給量の増大	a.精米品質の改善・向上による良質米の生産・流通量の増大と地域経済への貢献 b.破砕米・屑米等の農業(稲作)資源の有効利用の促進	a.組合農家数: 683戸 b.稲作農家数: 683戸 c.精米加工度合の改善・向上による自由市場への供出量の増大とKUD事業収入の改善及び組合農家の農家収入の向上 d.製粉加工事業による女性の就業機会の確保・拡大
5. KUD SEMANGAT 5.1 精米加工施設整備計画 + 破砕米・雑穀加工施設整備	6.7	5.9	5.9	5.1	4,389,161			a.組合農家数: 2,192戸 b.稲作農家数: 2,192戸 c.上記KUD SIPATUWOと同じ
6. KUD MATUTU 6.1 簡易肉牛肥育施設整備計画	3.0	2.3	2.3	1.8	3,199,574	a.増加する牛肉消費に対する供給面からの貢献 b.畜産振興政策の支援	a.畜産振興による地域経済振興への寄与 b.稲作中心農業の多角化及び農家経営の多角化の促進	a.組合農家数: 3,551戸 b.農業経営の多角化と農業収入の増大
					27,393,430			

\*融資条件  
金利: 5% (KUD MATUTUは3%)  
返済猶予: 5年  
返済期間: 20年  
\*ケース 1から3は感度分析結果

添付資料 5

モデル KUD 施設計画一覧

KUD	施設	計画内容
【バンドン県】 1. TANI MUKUTI	(1) 小型乳製品加工施設整備計画	生産規模 : 牛乳加工処理能力 1,000 L/日 -牛乳パッキング 800 L/日 -ヨーグルトパッキング 200 L/日 操業人員数: 12人 施設規模 : 300m <sup>2</sup> 事業費: RP 2,098,000,000
	(2) 乳雄肥育・乳雌育成施設整備計画	生産規模 : 年間、乳雄・雌 500 頭の肥育・育成販売 操業人員 : 114人 施設規模 : 牛舎 3,500m <sup>2</sup> 付属施設 700m <sup>2</sup> 事業費: RP 3,309,000,000
	(3) 配合飼料施設整備計画	生産規模 : 1,200 トン/月 操業人員数: 19人 施設規模 : 1,000m <sup>2</sup> 事業費: RP 988,180,000
2. PASIR JAMBU	(1) 乳雌育成施設整備計画	生産規模 : 年間、乳雌 200 頭の肥育・育成販売 操業人員数: 32人 施設規模 : 牛舎 700m <sup>2</sup> 付属施設 120m <sup>2</sup> 事業費: RP 732,000,000
	(2) 配合飼料施設整備計画	生産規模 : 1,200 トン/月 操業人員数: 19人 施設規模 : 1,000m <sup>2</sup> 事業費: RP 988,180,000
3. WALATRA	(1) ジャガイモ加工施設整備計画	生産規模 : スティック 600 ヶ月, 粉 150 ヶ月 操業人員数: 66人 施設規模 : 4,000m <sup>2</sup> 事業費: RP 7,083,000,000
【シドラップ県】 1. SIPATUWO	(1) 精米加工処理施設整備計画	精米加工規模: 1,200 トン/年 操業人員数 : 21人 施設規模 : 精米加工施設 1,626m <sup>2</sup> , 乾燥場 3,000m <sup>2</sup> 事業費 : RP 4,162,919,000
	(2) 破碎米・雑穀加工処理施設整備計画	加工処理規模: 米粉 135 トン/年 豆粉 35 トン/年, 菓子 500 個/日 操業人員数 : 14人 施設規模 : 232 m <sup>2</sup> 事業費 : RP 423,416,000
2. SEMANGAT	(1) 精米加工処理施設整備計画	精米加工規模: 1,200 トン/年 操業人員数 : 21人 施設規模 : 精米加工施設 1,626m <sup>2</sup> , 乾燥場 3,000m <sup>2</sup> 事業費 : RP 3,898,401,000
	(2) 破碎米・雑穀加工処理施設計画	*SIPATUWO と同一規模 RP 490,760,000
3. MATUTU	(1) 簡易肉牛肥育施設整備計画	肥育規模 : 720 頭/年間 操業人員数 : 30人 施設規模 : 牛舎 1,280m <sup>2</sup> + 付帯施設 428m <sup>2</sup> = 1,708m <sup>2</sup> x 2 事業費 : RP 3,199,574,000

\*KUD SEMANGAT の事業費には既存施設の撤去費用を含む。



## 添付資料 6

### バンドン県 3 モデル K U D 施設要員研修計画

KUD施設名	必要な研修科目および研修先	研修期間
KUD Tani Mukti		
a) 小型乳製品加工施設	G K S I より、牛乳工場の技術者を受け入れて実施研修を行う。その後必要に応じ指導を受ける。 品質管理－工場長 1 名、技術者 1 名	1 ヶ月
b) 配合飼料施設	衛生管理－工場長 1 名、作業員 5 名 品質管理・配合設計－技師 1 名およびオペレーター 2 名の研修を畜産試験場と G K S I 関連飼料工場で行う。	1 ヶ月 2 ヶ月
c) 雄牛肥育・雌牛育成施設	繁殖技術・衛生・給餌管理－獣医・獣医助手 4 名に対して、畜産試験場で研修	獣医は 4 ヶ月 助手は 2 ヶ月
KUD Pasir Jambu		
a) 雌乳牛育成	繁殖技術、家畜衛生、給餌管理技術－獣医・獣医助手 4 名に対して、畜産試験場で研修を行う。	獣医は 4 ヶ月 助手は 2 ヶ月
b) 配合飼料施設	品質管理・配合設計－技師 1 名およびオペレーター 2 名の研修を畜産試験場と G K S I 関連飼料工場で行う。	2 ヶ月
KUD Walatra		
a) ジャガイモ加工施設	機材オペレーション・メンテナンスについて機材製造メーカーに派遣して研修をする。また、品質管理、加工技術については先進技術国に派遣して研修する。	3 ヶ月 海外 2 ヶ月

# 添付資料 7

## シドランプ県3モデルKUD施設要員研修計画

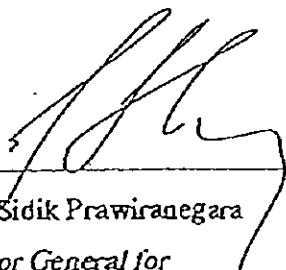
KUD施設名	必要な研修科目および研修先	研修期間
KUD Sipatuwo a) 精米加工・破 砕米雑穀加工施 設	<p>精米加工：ポストハーベスト・トレーニ ングセンターにてオペレーター3名の研 修を行う。</p> <p>破砕米・雑穀加工：機材製造元でオペレ ーター3名の研修を行う。</p>	<p>1ヶ月</p> <p>1ヶ月</p>
KUD Semangat - a) 精米加工・破 砕米雑穀加工施 設	<p>精米加工：ポストハーベスト・トレーニ ングセンターにてオペレーター3名の研 修を行う。</p> <p>破砕米・雑穀加工：機材製造元でオペレ ーター3名の研修を行う。</p>	<p>1ヶ月</p> <p>1ヶ月</p>
KUD Matutu a) 肉牛肥育	<p>繁殖技術、家畜衛生、給餌管理技術： 獣医資格者を育成するため畜産試験場で 研修を行う。</p> <p>飼育管理者18名：国営公社・肉牛種 畜牧場で研修を受ける。</p>	<p>1年</p> <p>1ヶ月</p>

添付資料 8

SCOPE OF WORK  
FOR  
A STUDY  
ON  
INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

AGREED UPON  
BETWEEN  
DIRECTORATE GENERAL OF RURAL COOPERATIVES DEVELOPMENT,  
MINISTRY OF COOPERATIVES AND SMALL ENTERPRISES  
AND  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

JAKARTA, NOVEMBER 23, 1995



---

Mr. A. Sidik Prawiranegara  
*Director General for*  
*Rural Cooperatives Development,*  
*Ministry of Cooperatives and Small Enterprises*



---

Mr. Tadashi TSUCHIYA  
*Leader*  
*Preparatory Study Team,*  
*Japan International Cooperation Agency*

## I. INTRODUCTION

In response to the request of the Government of the Republic of Indonesia (hereinafter referred to as "the Government of Indonesia"), the Government of Japan has decided to conduct a Study on Integrated Development Project for Rural Cooperatives in the Republic of Indonesia (hereinafter referred to as "the Study"), in accordance with the relevant laws and regulations in force in Japan.

Accordingly, Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), the official agency responsible for the implementation of the technical cooperation programs of the Government of Japan, will undertake the Study in close cooperation with the authorities concerned of the Government of Indonesia.

The present document sets forth the Scope of Work with regard to the Study.

## II. OBJECTIVES OF THE STUDY

The objectives of the Study are:

- 1-1. To evaluate the activities of rural cooperatives (Koperasi Unit Desa ; hereinafter referred to as "KUD") in past years, and formulate a general strategy for activation of KUD aiming at increasing incomes of inhabitants in rural areas so that rural living conditions be improved.
  - 1-2. To prepare Master Plans of re-orientation the activities of KUD in selected seven provinces by introducing factors of industrial cooperatives into KUD or strengthening existing function.
  - 1-3. To prepare most feasible activation plan of KUD in two model areas.
2. To transfer technology, which is required on preparing plans, to the Indonesian counterpart personnel through on-the-job training in the course of the Study.

## III. STUDY AREA

The Study covers three different groups of provinces and/or Kabupaten depending on its objectives. (See location map attached as ANNEX I)

- Study area for the objective 1-1 : whole Indonesia
- Study area for the objective 1-2 : seven provinces, namely

Sumatera Utara, Lampung, Jawa Barat, Jawa Timur,  
Nusa Tenggara Barat, Kalimantan Selatan,  
Sulawesi Selatan

- Study area for the objective 1-3 : two Kabupaten, namely
  - Kab. Bandung in Jawa Barat
  - Kab. Sidrap in Sulawesi Selatan

#### IV. SCOPE OF THE STUDY

In order to achieve above objectives, the Study will consist of following three phases:

##### 1. Phase I

Formulation of a general strategy for activation of KUD.

- 1-1. To collect and review relevant existing data and information on the past activities of KUD.
- 1-2. To review relevant laws and regulations, and development plans (national plans, regional plans, Third Umbrella Cooperation for Integrated Agricultural and Rural Development, etc.).
- 1-3. To evaluate the past activities of KUD, before and after the achievement of self-sufficiency of rice.
- 1-4. To formulate a general strategy for re-orientation of KUD activities.

##### 2. Phase II

Formulation of Master Plans for seven provinces to activate KUD so that the rural living conditions be improved through development of farming.

- 2-1. To collect and review relevant existing data and information and to carry out field survey and investigation with regards to:
  - A. natural condition
  - B. social condition
  - C. agriculture
    - production
    - processing
    - demand
    - market
    - distribution
    - infrastructure

- farmers' economy
- supporting system
- others

#### D. KUD

- organization
- activities
- financial conditions
- others

#### E. other related information

2-2. To identify the constraints and potential for re-orientation the activities of KUD.

2-3. To formulate Master Plans for each Province. Major components of the Plans shall be tentatively as follows:

- KUD activation plan for the facilitation and the diversification of agricultural production
- KUD activation plan for the processing of agricultural produces
- KUD activation plan for the distribution of agricultural produces and products
- Human resources enhancing plan required for the re-oriented KUD activities
- KUD activation plan for the establishment of rural credit system

#### 3. Phase III

Implementation of a feasibility study in order to formulate the most appropriate plan of KUD activities in two model areas.

### V. STUDY SCHEDULE

The Study will be carried out in accordance with the attached tentative schedule. (See ANNEX II)

### VI. REPORTS

JICA shall prepare and submit the following reports in English to the Government of Indonesia.

#### 1. Inception Report

Thirty (30) copies at the commencement of the Phase I field study.

#### 2. Progress Report (1)

Thirty (30) copies at the end of the Phase I field study.

#### 3. Interim Report (1)

Thirty (30) copies at the commencement of the Phase II field study.

4. Progress Report (2)

Thirty (30) copies at the end of the Phase II field study.

5. Interim Report (2)

Thirty (30) copies at the commencement of the Phase III field study.

6. Progress Report (3)

Thirty (30) copies at the end of the Phase III field study.

7. Draft Final Report

Thirty (30) copies after the Phase III study. The Government of Indonesia will provide JICA with its comments on the Draft Final Report within one (1) month after receipt of the Draft Final Report.

8. Final Report

Fifty (50) copies within two (2) months after the receipt of the Government of Indonesia's comments on the Draft Final Report.

## VII. UNDERTAKING OF THE GOVERNMENT OF INDONESIA

1. To facilitate smooth conduct of the study, the Government of Indonesia shall take necessary measures :

1-1. to secure the safety of the Japanese study team.

1-2. to permit the members of the Japanese study team to enter, leave and sojourn in the Republic of Indonesia for the duration of their assignment therein, and exempt them from foreign registration requirements and consular fees.

1-3. to exempt the members of the Japanese study team from taxes, duties, fees and any other charges on equipment, machinery and other materials brought into the Republic of Indonesia for the conduct of the Study.

1-4. to exempt the members of the Japanese study team from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with any emoluments or allowances paid to the members of the Japanese study team for their services in connection with the implementation of the Study.

1-5. to provide necessary facilities to the Japanese study team for the remittance as well as utilization of the funds introduced into the Republic of Indonesia from Japan in connection with the implementation of the Study.

1-6. to secure permission for entry into private properties or restricted areas for the implementation of the Study.

- 1-7. to secure permission for the Japanese study team to take all data and documents (including photographs and maps) related to the Study out of the Republic of Indonesia to Japan.
  - 1-8. to provide medical services as needed. Its expense will be chargeable on the members of the Japanese study team.
2. The Government of Indonesia shall bear claims, if any arises, against the members of the Japanese study team resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with, the discharge of their duties in the implementation of the Study, except when such claims arise from gross negligence or willful misconduct on the part of the members of the Japanese study team.
  3. Directorate General of Rural Cooperatives Development, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises (hereinafter referred to as "DGRCD") shall act as counterpart agency to the Japanese study team and also as coordinating body in relation with other governmental and non-governmental organizations concerned for the smooth implementation of the Study.
  4. DGRCD shall, at its own expense, provide the Japanese study team with the following, in cooperation with other organizations concerned ;
    - 4-1. available data and information related to the Study,
    - 4-2. counterpart personnel (tentatively 10 persons),
    - 4-3. suitable office space with necessary equipment and furniture in Jakarta and study sites, and
    - 4-4. credentials or identification cards.

#### VIII. UNDERTAKING OF JICA

For the implementation of the Study, JICA shall take the following measures :

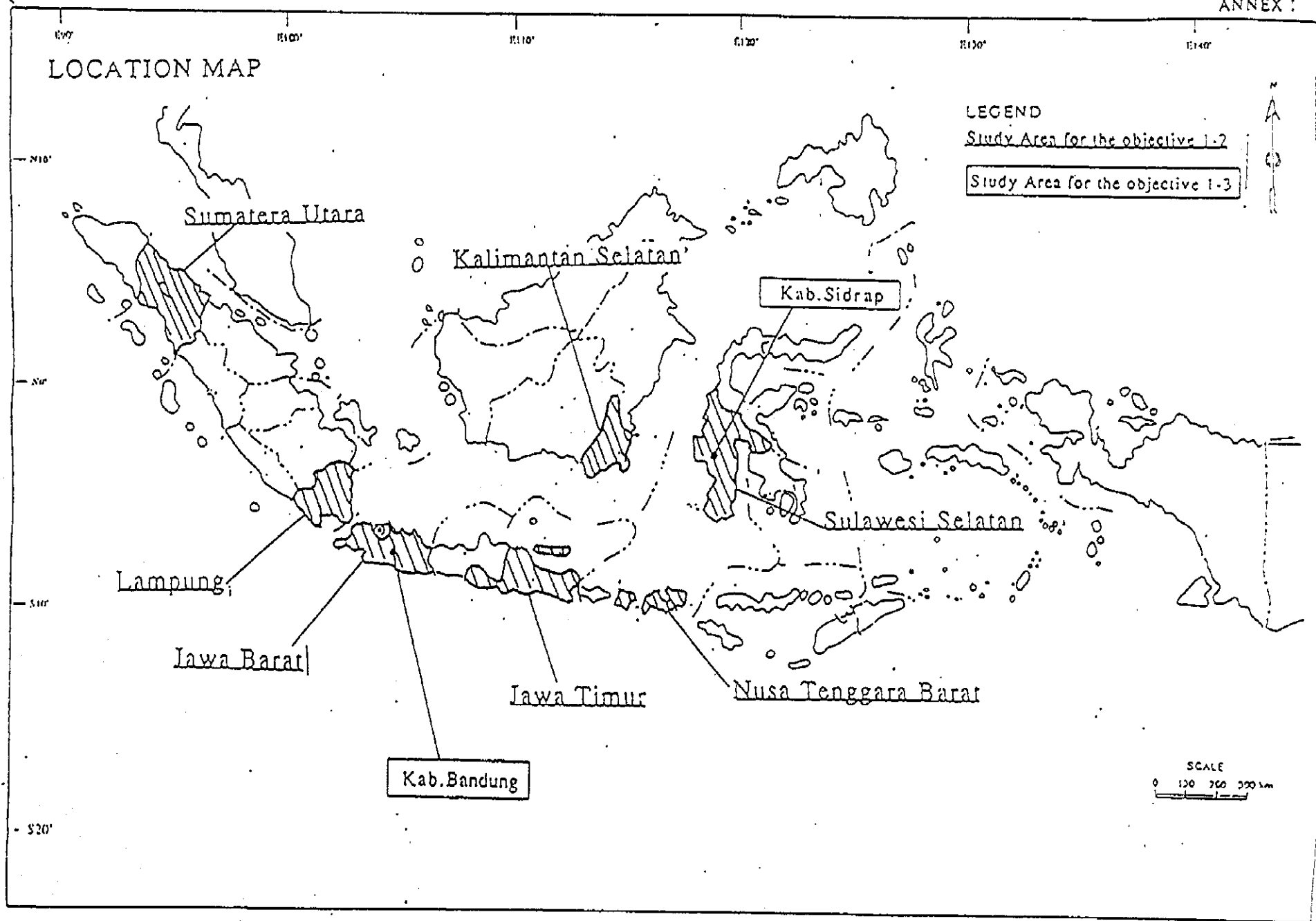
1. to dispatch, at its own expense, study teams to the Republic of Indonesia, and
2. to pursue technology transfer to the Indonesian counterpart personnel in the course of the Study.

#### IX. CONSULTATION

JICA and DGRCD shall consult with each other in respect of any matter that may arise from or in connection with the Study.



LOCATION MAP



Handwritten signature or initials.

# TENTATIVE SCHEDULE

ANNEX II

-68-

Month Item	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
Work in Indonesia																										
Work in Japan																							○			
Phase	← Phase I →							← Phase II →							← Phase III →											
Reports	△ IC/R	△ P/R (1)						△ IT/R (1)										△ P/R (2)								
																	△ IT/R (2)	△ P/R (3)								
																					△ DF/R					
																									△ F/R	

(Remarks) IC/R: Inception Report      P/R: Progress Report  
 IT/R: Interim Report      DF/R: Draft Final Report      F/R: Final Report  
 ○ Comments on DF/R by the Indonesian side

JK

MINUTES OF MEETING  
ON  
SCOPE OF WORK  
FOR  
A STUDY  
ON  
INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

AGREED UPON  
BETWEEN  
DIRECTORATE GENERAL OF RURAL COOPERATIVES DEVELOPMENT,  
MINISTRY OF COOPERATIVES AND SMALL ENTERPRISES  
AND  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

JAKARTA, NOVEMBER 23, 1995

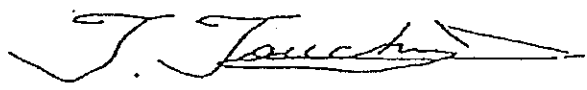


---

Mr. A. Sidik Prawiranegara

*Director General for*

*Rural Cooperatives Development,  
Ministry of Cooperatives and Small Enterprises*



---

Mr. Tadastu TSUCHIYA

*Leader*

*Preparatory Study Team,  
Japan International Cooperation Agency*

The preparatory study team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), and headed by Mr. Tadashi TSUCHIYA, visited the Republic of Indonesia from November 14 to 25, 1995 for the purpose of discussing and confirming Scope of Work for a Study on Integrated Development Project for Rural Cooperatives in the Republic of Indonesia.

The Team had a series of discussions and changed views with the officials concerned of the Directorate General of Rural Cooperatives Development, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises (hereinafter referred to as "DGRCD"), on Scope of Work for the Study. The list of participants in the meetings is attached in the Annex.

As a result of the discussions, DGRCD and the Team agreed on Scope of Work for the Study.

The following are the main issues discussed and agreed upon by both sides in relation to Scope of Work for the Study.

1. The Team suggested that a Steering Committee ( hereinafter referred to as "the Committee"), for smooth and effective implementation of the Study, be organized by relevant departments and organizations of the Government of Indonesia (including Ministry of Agriculture) before beginning of the Study. DGRCD agreed with the idea and promised to organize the Committee.
2. The Team requested that counterpart personnel to the Japanese study team, necessary for smooth and effective implementation of the Study, be assigned in Jakarta and study sites. DGRCD agreed with the idea and promised to be responsible for the assigning.
3. The Team requested that offices for the Japanese study team equipped with telephones, electricity, water supply and necessary number of desks and chairs be provided in Jakarta, Medan, Bandar Lampung, Bandung, Surabaya, Mataram, Ujung Pandang, Banjarmasin, and feasibility study sites. DGRCD promised to provide these offices at the commencement of the Study.
4. DGRCD requested that the following equipment necessary for the Study be procured by JICA and the Team promised to convey the request to the JICA headquarter in Tokyo.
  - vehicles
  - photocopy machine
  - computers
5. DGRCD requested counterparts training in Japan. The Team promised to convey the request to the JICA headquarter.

## LIST OF PARTICIPANTS

Secretary General

Drs. Soeyanto

Ir. Hendrianto

Mr. Hideo WATANABE

Mr. Toshio SHIMIZU

Head, Bureau of Planning

Staff, Bureau of Planning

JICA Expert, Bureau of Planning,

JICA Expert, Bureau of Planning

DGRCD

Mr. A. Sidik Prawiranegara

Ir. Teguh Boediyana

Ir. Wayan Suarja

Drs. Hari Parwanto

Drs. Faros S. Rochman

Ir. Meliadi Sembiring

Mr. Haslan Yunus

Ir. Mardjoko Pratomo

Director General for Rural Cooperative Development

Director for Livestock Cooperative Development

Chief, Planning Division, Secretariat for DG

Chief, Food Crops Agricultural Cooperative Sub-division

Chief, Animal Husbandry Cooperative Sub-division

Chief, Evaluation and Report Division, Secretariat for DG

Chief, Secretariat for DG

Section Chief, Estate Cooperative Sub-division

The Team

Mr. Tadasbi TSUCHIYA

Mr. Hiroaki KINOSHITA

Mr. Nobuo TAMESUE

Mr. Yukiyasu YAMAKITA

Mr. Yasuhiro NAGAI

Mr. Kenichi MATSUMOTO

Leader

Member

Member

Member

Member

Member

Secretariat of Umbrella Cooperation III


Mr. Naotoshi KAKIYA

JICA Exper

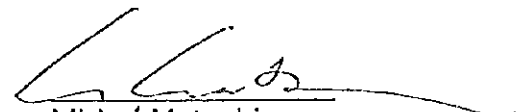
FR

MINUTES OF MEETING  
OF  
THE INCEPTION REPORT  
OF  
A STUDY ON INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

JAKARTA, FEBRUARY 15, 1996.



Mr. A. Sidik Prawiranegara  
Director General for  
Rural Cooperatives Development  
Ministry of Cooperatives  
and Small Enterprises



Midori Matsuhira  
Leader  
The Study Team,  
Japan International  
Cooperation Agency

Witnessed by :



Kenichi Matsumoto  
Agricultural Development Study Division,  
Agricultural, Forestry and Fisheries  
Development Study Department  
Japan International Cooperation Agency

A joint Meeting between Directorate General of Rural Cooperatives Development (hereinafter referred to as "DGRCD" and JICA Study Team (hereinafter referred to as "the Team") was held on February 13, 1996 at DGRCD office to discuss the contents of the Inception Report which was submitted to DGRCD on February 12, 1996.

After active discussion, the contents of the Inception Report were generally agreed upon by and between both parties.

Items confirmed were as follows :

1. DGRCD already organized the Steering Committee in accordance with S/W. The member list of the Committee is attached as Appendix I.
2. DGRCD already nominated counterparts, and the member list of the counterparts is attached as Appendix I.
3. It was recognized that such terminologies as " multipurpose cooperatives", "basic saving", "industrial cooperative" may be understood differently between Indonesian and Japanese Cooperatives. Therefore, when using these terminologies, both sides should clarify the interpretation of such words.
4. DGRCD will submit an application form for the training of the counterpart to the Government of Japan shortly.

J. Y.

L. L.

K. M.

## LIST OF ATTENDANT

### I. DGRCD

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| 1. A. Sidik Prawiranegara | Director General for Rural Cooperatives Dev.                |
| 2. Tasman Pasaribu        | Senior Expert to the Minister                               |
| 3. Hedyono                | Secretary to DGRCD  |
| 4. Teguh Boediyana        | Director<br>Dir. Animal Husbandry Cooperative Dev.          |
| 5. Azwar Nauman           | Director<br>Dir. Fishery Cooperative Dev.                   |
| 6. Wayan Suarja A.R       | Head of Program Div.  |
| 7. Suprpto                | Head of Marine Fishery Div.                                 |
| 8. Abdul Kadir Damanik    | Head of Institution and Facility Div.                       |
| 9. Faroz S. Rochman       | Chief, Animal Husbandry Cooperative Div                     |
| 10. Meliadi Sembiring     | Chief, Evaluation and Report Section,<br>Secretariat for DG |
| 11. M. Haslan Yunus       | Chief, Technical Cooperation Section,<br>Secretariat for DG |
| 12. Luhur P               | Chief, Institutional Section<br>Secretariat for DG          |
| 13. Bambang WK            | Section Chief, DGRCD  |
| 14. Rinie Sriyanti        | Chief, Horticulture Section.                                |
| 15. Edih Supriadi         | Section Chief, DGRCD  |
| 16. Pariaman Sinaga       | Section Chief, DGRCD  |
| 17. Tri Indratni          | Section Chief, DGRCD  |
| 18. M Rudi                | Section Chief, DGRCD  |

### II. BUREAU OF PLANNING

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1. Benny Pasaribu | Senior Staff                                |
| 2. D. Lumban Gaol | Head, Foreign Cooperation Div               |
| 3. Hendrianto     | Head, Foreign Technical Cooperation Section |

G. G. K. M.



### III. THE STUDY TEAM

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| 1. Midori Matsuihiro     | Leader      |
| 2. Toshio Shimizu        | Sub-leader  |
| 3. Daman Prakash         | Member      |
| 4. Jiro Hashiguchi       | Member      |
| 5. Mark Van Stywik       | Member      |
| 6. Sudarsono Hajosukarto | Member      |
| 7. Hiroshi Terunuma      | Coordinator |

### IV. JICA

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. Kenichi Matsumoto | Officer in Charge |
|----------------------|-------------------|

*Handwritten signature* K.M.

## APPENDIX I

### I. STEERING COMMITTEE

1. A. Sidik Prawiranegara	Chairman
2. Hedyono	Secretary
3. Suyanto	Member
4. Eiko Whismulyadi (Bappenas)	Member
5. Suharyo Husein (Min. of Agriculture)	Member
6. Muh. Taufik	Member
7. Teguh Boediyana	Member
8. Iyan Muchtar	Member

### II. WORKING TEAM / COUNTERPARTS

1. Hari Parwanto	Chairman
2. Wayan Suarja	Secretary
3. Faroz S. Rahman	Member
4. Abdul Kadir Damanik	Member
5. Tri Indratni	Member
6. Hendrianto	Member
7. Haslan Yunus	Member
8. Meliadi Sembiring	Member
9. Marjoko P	Member
10. Rini Srianti	Member

*K.M.*

MINUTES OF MEETING

FOR

PROGRESS REPORT (I)

A STUDY ON INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT

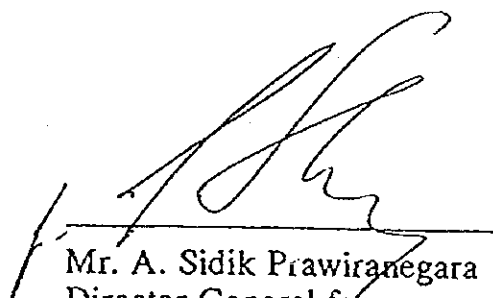
FOR

RURAL COOPERATIVES

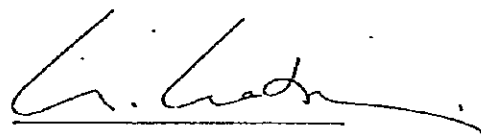
IN

THE REPUBLIC OF INDONESIA

JAKARTA, MARCH 22, 1996



Mr. A. Sidik Prawiranegara  
Director General for  
Rural Cooperatives Development  
Ministry of Cooperatives  
and Small Enterprises



Midori Matsuhira  
Leader,  
The Study Team,  
Japan International  
Cooperation Agency

A joint Meeting between Directorate General of Rural Cooperatives Development (hereinafter referred to as "DGRCD" and JICA Team (hereinafter referred to as "the Team") was held on March, 22, 1996 at DGRCD office to discuss and exchange views on the contents of the Progress Report (1) and policies on Phase II Field Survey.

The meeting was chaired by Mr. A. Sidik Prawiranegara, Director General of Rural Cooperatives Development, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises.

The Team headed by Mr. Midori Matsuhiro presented thirty (30) copies of Progress Report (1) at the end of the First Field Survey.


Mr. M. Matsuhiro thanked DGRCD for the kind cooperation extended to the Team, and briefed the participants about contents of the Report.

The list of participants attending the meeting is attached.

At the meeting, DGRCD has expressed that the Report is clear and comprehensive. Indonesian participants suggested the following points, and the Team had well noted of these kind suggestions, and promised to take due consideration in this regard. After discussion, DGRCD agreed with the contents of the Progress Report (1).

Cattle and poultry raising, post-harvest activities, participation of members, difficulties of communication including market information, horticulture including fruits, and PUSKUD/INKUD business relation with KUD should be studied in the Phase II.

Mr. Matsuhiro appreciated efforts exerted by counterparts, especially in collecting data/information. He said he should appreciated very much if



DGRCD could provide the same kind of arrangements well in advance of Phase II Field Survey which will start June, 1996.

DGRCD had well noted of this.

Also at the meeting, Tentative Policies on Phase II Field Survey was discussed in order to set the Basic Plan for Integrated Development of KUD for the 7 Provinces as per attached sheet.

A handwritten signature in cursive script, appearing to be 'F. M. L.', located in the bottom left corner of the page.

## Tentative Policies on Phase II Field Survey

1. When drafting the Basic Plan, due care should be taken concerning peculiar aspects of each province, and applicable methods for integration of KUD's activities.

2. Selection of KUD to be surveyed.

In principle, 5 KUD will be selected in each province. In order to meet the requirements prescribed in the Inception Report, agro-ecosystem and developmental stage of KUD are to be the basic criteria for selection.

3. Survey directly conducted by the Team.

It was requested to DGRCD to send some counterparts to this field survey in order to assist the Team and at the same time to make it possible for the Team to transfer technical know-how to the counterparts. DGRCD took note of this request.

4. Commissioned Field Survey

a. The survey will be commissioned to such third parties as University of Indonesia and Bogor Agricultural Institute.

b. Farm household survey will be conducted in 3 KUD in each province, and these KUD should be selected from among 5 KUD mentioned 2 above.

c. The Team asked DGRCD to issue, when required, necessary permission for the implementation of the Commissioned Field Survey.

5. Survey other than farm household survey.

This survey will be conducted in 7 provinces and also in 2 Kabupatens in each province. These Kabupatens should be selected from among Kabupatens where 5 KUD mentioned 2 above are located.

## LIST OF ATTENDANT

### I. STEERING COMMITTEE

1. A. Sidik Prawiranegara Director General, Rural Cooperatives Dev.
2. M. Taufiq Director, Coop. Research and Development
3. Teguh Boediyana Director, Animal Husbandry Coop. Dev.
4. Iyan Muchtar Director, Food Crops & Horticulture Coop. Dev.

### II. COUNTERPARTS

1. Hari Parwanto Division Chief, Food Crop
2. Wayan Suardja Division Chief, Program
3. Faroz Rahman Division Chief, Animal Husbandry
4. Hendrianto Section Chief, Foreign Cooperation
5. Mardjoko Section Chief, Estate Crops
6. Haslan Yunus Section Chief, Technical Cooperation

### III. SECRETARIAT GENERAL

1. D. L. Gaol Division Chief, Foreign Cooperation

### IV. DGRCD

1. Luhur Pradjarto Section Chief, Institutional

### V. JICA

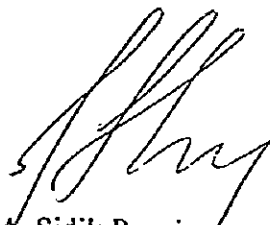
1. Tetsuya Otomo JICA Expert
2. Nuotoshi Kakiya JICA Expert
3. Masao Okawa JICA Expert

### VI. THE STUDY TEAM

1. Midori Matsuhira Leader
2. Toshio Shimizu Sub-Leader
3. Daman Prakash Member
4. Jiro Hashiguchi Member
5. Shigeri Fukamachi Member
6. Hiroshi Terenuma Member

MINUTES OF MEETING  
ON  
PROGRESS REPORTS (II)  
FOR  
THE STUDY ON INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

JAKARTA, December 5th, 1996



Mr. A. Sidik Prawiranegara  
Director General for  
Rural Cooperatives Development  
Ministry of Cooperatives  
and Small Enterprises



Midori Matsuhiro  
Leader  
The Study Team,  
Japan International  
Cooperation Agency



A joint Meeting between Directorate General for Rural Cooperatives Development (here in after referred to as "DGRCD" and JICA Team (here in after referred to as "the Team") was held on December 5th, 1996 at DGRCD office to discuss and exchange views on the contents of the Progress Report (II).

The meeting was chaired by Mr. A. Sidik Prawiranegara, Director General for Rural Cooperatives Development, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises.

The Team headed by Mr. Midori Matsuhiro submitted officially thirty (30) copies of Progress Report (II) at the end of the Second Field Survey. First of all, Mr. M. Matsuhiro thanked DGRCD for the heart-felt cooperation extended to the Team during the Phase II survey, and then briefed the participants about contents of the Report.

The list of participants attending the meeting is attached.

At the meeting, DGRCD has expressed that the Report is clear and comprehensive. After discussion, the following points were agreed upon by and between DGRCD and the Team.

1. DGRCD has duly acknowledged the contents of the Progress Report (II) which includes the following items :
  - (1) Directions of KUD Development
  - (2) Results of the Phase II Survey including commissioned survey
  - (3) Tentative Clarification of Hampering Factors and Possibilities of KUD Activation in the Seven Provinces (each province)
  - (4) Tentative Basic KUD Activation Promotion Plan (for each 7 Provinces)
  - (5) Basic Plan for Selecting model KUD for the Phase III Study
  - (6) Policies and methods of the Phase III Study
  - (7) Basic matters of the Interim report
  
2. The Team will move into the next stage of the Study to prepare the Interim Report based upon the Progress Report (I) & (II) in relation with Inception Report.

During the exchange of views, Indonesian participants have suggested the following points, and the Team has noted well these kind suggestions.



- (1) It is requested that in preparing the Basic Plans for KUD Development, due care should be taken not to be inconsistent with the existing government plans and programmes, and should be in close cooperation with Indonesian Government.
  
- (2) Some technical errors were pointed out such as statistical numbers, unit of Rupiah, etc

The Team requested that it should be appreciated if DGRCD consider on necessary budgetery allocation for both national and local counterparts for their visit to phase III Field Study. DGRCD well noted of it.

It was suggested by DGRCD that phase III study should start from June 1997 after the Election which takes place on 29th May, 1997.

# LIST OF ATTENDANT

## I. STEERING COMMITTEE

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 1 A. Sidik Prawiranegara | Director General, Rural Cooperatives Dev.                           |
| 2 M. Taufiq              | Director, Coop. Research and Development                            |
| 3 Teguh Boediyana        | Director, Animal Husbandry Coop. Dev.                               |
| 4 Iyan Muchtar           | Director, Food Crops & Horticulture Coop. Dev.                      |
| 5 Mr. Suharyo Husein     | Director, International Cooperation Bureau, Ministry of Agriculture |
| 6 Mr. Slamet Sudarsono   | Bappenas  |
| 7 Yandri Ali             | Ministry of Agriculture   |

## II. COUNTERPARTS

- |                     |                                      |
|---------------------|--------------------------------------|
| 1 Hari Parwanto     | Division Chief, Food Crop.           |
| 2 Wayan Suardja     | Division Chief, Program              |
| 3 Faroz Rahman      | Division Chief, Animal Husbandry     |
| 4 Hendrianto        | Section Chief, Foreign Cooperative   |
| 5 Mardjoko          | Section Chief, Estate Crops          |
| 6 Haslan Yunus      | Section Chief, Technical Cooperation |
| 7 Meliadi Sembiring | Section Chief Report and Evaluation  |
| 8 Rinje Sri Yanti   | Section Chief of Coop. Horticulture  |
| 9 Tri Indratni      | Section Chief of Coop. Fishing       |

## III. SECRETARIAT GENERAL

- |             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| 1 D.L. Gaol | Division Chief, Foreign Cooperation |
|-------------|-------------------------------------|

## V. JICA

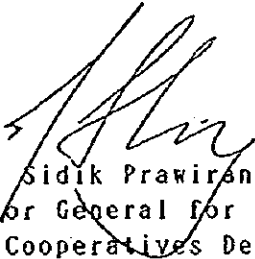
- |                      |                                       |
|----------------------|---------------------------------------|
| 1 Naotoshi Kakiya    | JICA Expert (Ministry of Agriculture) |
| 2 Hajime Nakahigashi | JICA Expert (Ministry of Agriculture) |
| 3 Masao Okawa        | JICA Expert (Ministry of Coop. & SE)  |

## VI. THE STUDY TEAM

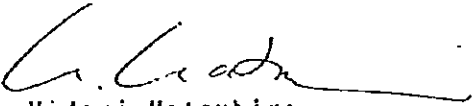
- |                            |            |
|----------------------------|------------|
| 1 Midori Matsuhira         | Leader     |
| 2 Toshio Shimizu           | Sub-Leader |
| 3 Daman Prakash            | Member     |
| 4 Jiro Hashiguchi          | Member     |
| 5 Shigeri Fukamachi        | Member     |
| 6 Hiroshi Terunuma         | Member     |
| 7 Takeshi Saito            | Member     |
| 8 Sudarsono Hardjosoekarto |            |

MINUTES OF MEETING  
ON  
INTERIM REPORT  
FOR  
THE STUDY ON INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

JAKARTA, July 2nd, 1997

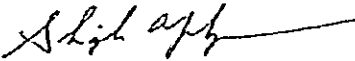


Mr. A. Sidik Prawiranegara  
Director General for  
Rural Cooperatives Development  
Ministry of Cooperatives  
and Small Enterprises



Midori Matsuhira  
Leader  
The Study Team,  
Japan International  
Cooperation Agency

Witnessed by:



Shigeki Yokoyama  
Member  
Advisory Committee  
Japan International Cooperation Agency

A Joint Meeting between Directorate General for Rural Cooperatives Development (hereinafter referred to as "DGRCD" and JICA Team (here in after referred to as "the Team") was held on July 2nd, 1997 at DGRCD office to discuss and exchange views on the contents of the Interim Report. The meeting was chaired by Mr. A. Sidik Prawiranegara, Director General for Rural Cooperatives Development, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises.

The Team headed by Mr. Midori Matsuhiko sent officially thirty(30) copies of the Interim Report in April, 1997 by air-mail, and DGRCD duly acknowledged the receipt. First of all, Mr. M. Matsuhiko thanked DGRCD for the heart-felt cooperation extended to the Team during the Phase II survey, and then briefed the participants about contents of the Report. The list of participants attending the meeting is attached.

At the meeting, DGRCD expressed that he found analysis in the report satisfactory and basic plans practicable. After discussion, the following points were agreed upon by and between DGRCD and the Team.

1. It was agreed that, as written in the Inception Report, in the Phase III Study, KUD-specific development plan which is practical and applicable should be proposed.
2. It was emphasized that the cooperation and collaboration between government ministries concerned, especially between Ministry of Cooperatives and Small Enterprises and Ministry of Agriculture should be more and more promoted.
3. It was agreed that the KUD self-efforts should be considered as one of the most important factors and government and external assistance should be based on such self-efforts.

The Team will move into the next stage of the Study to prepare the Draft Final Report based upon the Progress Report (I)(II)(III), and the Interim Report.

During the exchange of views, Indonesian participants have suggested the following points, and the Team has noted well these kind suggestions.

1. Apart from KUD, some explanation of specialized secondary level organization was presented.
2. Study without action should be carefully avoided.
3. Integrated approach should be emphasized and managerial and technical skill should be developed.

4. Rice center program should be considered.

5. Due care must be taken in proposing amalgamation of KUD.

## List of Attendants

### I Steering Committee

1. A Sidik Pawiranegara Director General, Rural Cooperative Division
2. Ir. Teguh Budiya, Msc Member
3. Wayan Sidhya Ministry of Agriculture

### II Counterparts

1. Ir. A. Kadir Mamanik, MM
2. Drs. Hari Parwant
3. Ir. Tri Indratni
4. Ir. Marjoko
5. Ir. Fitriatun
6. Drs. Faros Abdul Rahman
7. Ir. Hendrianto
8. Ir. Zahril Rustam
9. Drs. M. Haslan Yunus
10. Ir. Rini Sriyanti

### III Secretary General

1. Drs. Soeyanto

### IV JICA

1. Masao Okawa JICA Expert
2. Naotoshi Kakiya JICA Umbrella Cooperation
3. Hajime Nakahigashi JICA Umbrella Cooperation
4. Masahiro Tawa JICA Representative Office

### V JICA Advisory Committee Team

1. Shigeki Yokoyama Advisory Team Leader
2. Nobuyuki Kobayashi Coordinator

### VI The Study Team

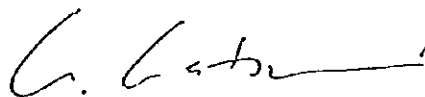
1. Midori Matsuhira Leader
2. Toshio Shimizu Sub-leader
3. Daman Prakash Member
4. Jiro Hashiguchi Member
5. Mark A Van Steenwyk Member
6. Sudarsono Hajosukarto Member
7. Hiroshi Terunuma Coordinator

MINUTES OF MEETING  
ON  
PROGRESS REPORT (III)  
FOR  
THE STUDY ON INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

JAKARTA, August 22nd, 1997



Drs. Hedyono  
Director General for  
Rural Cooperatives Development  
Ministry of Cooperatives  
and Small Enterprises



Midori Matsuhira  
Leader  
The Study Team  
Japan International  
Cooperation Agency



A joint Meeting between Directorate General of Rural Cooperatives Development (hereinafter referred to as "DGRCD" and JICA Team (hereinafter referred to as "the Team") was held on August 22nd , 1997 at DGRCD office to discuss and exchange views on the contents of the Progress Report (III). The meeting was chaired by Drs. Hedyono, Director General of Rural Cooperatives Development, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises.

The Team headed by Mr. Midori Matsuhira presented thirty (30) copies of Progress Report (III) at the end of the Phase III Field Survey.

In the opening address, Mr. M. Matsuhira expressed his most sincere gratitude to DGRCD for his kind advise and assistance extended to the Team during the Phase III survey. He emphasized, among others, the invaluable cooperation and collaboration by the Ministry of Cooperatives and Small Enterprises, the Ministry of Agriculture, and BAPPENAS in connection with the Study.

Then, he went on to explain the contents of the Progress Report III.

The list of participants attending the meeting is attached.

At the meeting, DGRCD expressed that the Report focused on the feasible plans to activate 6 selected KUD, and that the outcome of the Report was agreeable to him.

He wished that these plans be brushed up in preparing the Draft Final Report.

After discussion, the following points were agreed upon by and between DGRCD and the Team.

1. Basic matters to be included in the Draft Final Report should be as written in the Progress Report III in general.
2. It is recognized that in preparing the Draft. Final Draft, due care should be taken for inter-relations between many lines of business activities of the KUD, keeping in mind that the human resources development is a core for the KUD development.

During the exchange of views, Indonesian participants have suggested the following points, and the Team has noted well these kind suggestions.

1. Consistant decription between characteristics, problems and basic plan should be made clearly.
2. Regarding the source of necessary funds needed, what the KUD can do, what the central & local government can do would have to be mentioned, and in case of need of external assistance, the reasons should be emphasised.

*l. l.*

*l. l.*

## List of Attendants

### I Steering Committee

- |   |                          |  |
|---|--------------------------|--|
| 1 | Drs. Hedyono             | Director General, Rural Cooperative Development                        |
| 2 | Ir. Teguh Budijana, MSc. | Director   |
| 3 | Dr. Ir. M. Taufik, MSc.  | Research and Development Agency  |
| 4 | Suharyo Husein, SE       | Director International Cooperation Department, Ministry of Agriculture |
| 5 | Ir. Iyan Mochtar E., MM  | Director of Cooperative & Food Crop                                    |

### II Counterparts

- |   |                             |  |
|---|-----------------------------|--|
| 1 | Ir. A. Kadir Damanik, MM    |  |
| 2 | Drs. Hari Parwanto          |  |
| 3 | Ir. Tri Indratni            |  |
| 4 | Ir. Marjoko                 |  |
| 5 | Ir. Fitriatun               |  |
| 6 | Ir. Hendrianto              |  |
| 7 | Ir. Zahril Rustan           |  |
| 8 | Drs. M. Haslan Yunus        |  |
| 9 | Ir. Meliadi Sembiring, MSc. |  |

### III JICA

- |   |                    |                            |
|---|--------------------|----------------------------|
| 1 | Naotoshi Kakiya    | JICA Umbrella Cooperation  |
| 2 | Hajime Nakahigashi | JICA Umbrella Cooperation  |
| 3 | Masahiro Tawa      | JICA Representative Office |

IV The Study Team

1	Midori Matsuhira	Leader
2	Toshio Shimizu	Sub-leader
3	Danan Prakash	Member
4	Jiro Hasiguchi	Member
5	Shigeri Fukamachi	Member
6	Tetsuo Mizobe	Member

*6.6*

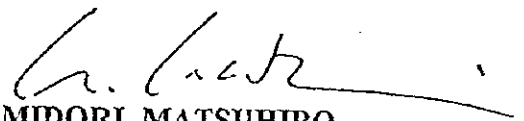
*6x*

MINUTES OF MEETING  
ON  
DRAFT FINAL REPORT  
FOR  
THE STUDY ON INTEGRATED DEVELOPMENT PROJECT  
FOR  
RURAL COOPERATIVES  
IN  
THE REPUBLIC OF INDONESIA

Jakarta, February 18th, 1998.



**HEDIYONO**  
Director General for  
Rural Cooperative Development  
Ministry of Cooperatives and  
Small Enterprises.

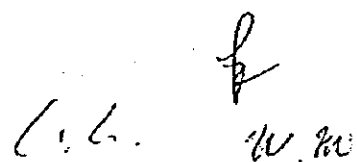


**MIDORI MATSUHIRO**  
Leader  
The Study Team,  
Japan International  
Cooperation Agency.

Witnessed by :



**NORIAKI MURASE**  
Coordinator  
The Advisory Team  
Japan International Cooperation Agency.



A committee meeting between Directorate General for Rural Cooperatives Development (hereinafter referred to as "DGRCD") and JICA Team (hereinafter to as "The Team") was held on February 17th, 1998 at DGRCD office to discuss and exchange views on the contents of the Draft Final Report.

The meeting was chaired by Mr. Iyan Muchtar Effendy, Director for Food Crop Cooperative, DGRCD, Ministry of Cooperatives and Small Enterprises.

Mr. Midori Matsuhiko reported that thirty (30) copies of Draft Final Report together with thirty (30) copies of Appendices were sent to DGRCD in advance, and DGRCD duly acknowledged the receipt of the same.

In the opening address, Mr. M. Matsuhiko expressed his many thanks to DGRCD for his kind advise and assistance extended to the Team during the survey. He emphasized, among others, the invaluable cooperation and collaboration by the Ministry of Cooperatives and Small Enterprises, the Ministry of Agriculture, and BAPPENAS in connection with the Study.

Then, he went to explain the contents of the Draft Final Report.

The List of Participants attending the meeting is attached.

At the meeting, on behalf of Director General of DGRCD, the Chairman expressed that the outcome of the Report was generally acceptable to him.

At the meeting, following points were presented by the participants.

Participants appreciated and expressed thanks for the efforts of the Team.

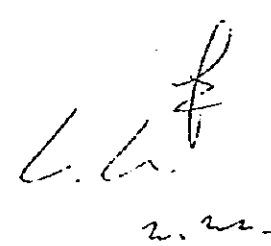
As to merger of KUD in line with amalgamation, several participants showed keen interest, and the Team suggested that necessary information in this regards should be sent by the Central Union of Agricultural Cooperatives. It was agreed that such information should not be included in the Final Report.

Regarding the Draft Recommendations, it was agreed that, in connection with KJA, not only the reduction of auditing fee but also further recognition by KUD of the importance of audit by KJA for the credibility of KUD should be considered.

It was agreed that, the most important future steps to be taken should be how to realize the suggestion by the Team. In implemetation under Third Umbrella Cooperation, support by the Ministry of Cooperatives and Small Enterprises, Ministries concerned, and also support of JICA were eagerly requested.

The Indonesian side agreed that the Final Report would be available to any persons who have interest in the Study results.

The writing comments on the Report will be made by the Indonesian side and will be sent, if any, to JICA Indonesian Office by March 16th, 1998.

Handwritten signature and initials, possibly "L. L." and "2.22", located at the bottom right of the page.

## LIST OF ATTENDANTS

- I. Steering Committee :
1. Iyan Muchtar Effendy. Director for Food Crop Cooperative, DGRCD.
  2. Suharyo Husein. Head, Bureau of Foreign Cooperation, Ministry of Agriculture.
- II. Counterparts :
1. Abd. Kadir Damanik. Division Chief of Program.
  2. Meliady Sembiring. Division Chief of Institution and Facilities.
  3. Rohadi Danu Wikarsa. Division Chief of Food Crops Cooperative.
  4. Fitriyatun. Division Chief of Animal Husbandry.
  5. Hari Parwanto. Division Chief of Inspectorate General.
  6. Tri Indratni. Section Chief of Inland Fisheries Coop.
  7. Hendrianto. Section Chief of Bilateral Cooperation.
  8. M. Haslan Yunus. Section Chief of Technical Cooperation.
- III. DGRCD Staffs :
1. Soebroto.
  2. Tasman Pasaribu.
  3. Maleawan Basuki.
  4. Bambang WK.
- IV. JICA Advisory Team :
1. Mr. Noriaki Murase. Coordinator.
- V. JICA Indonesia Office :
1. Mr. Masahiro Tawa.
- VI. JICA Expert :
1. Mr. Naotoshi Kakiya.
- VII. Study Team :
1. Mr. Midori Matsuhira. Leader.
  2. Mr. Toshio Shimizu. Sub-leader.

----- 000 -----

## 添付資料 1 6

### Name List of the Study Team Members and Counterparts

#### I. Study team members

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. Mr. Midori Matsuhira      | Team leader (JA ZENCHU) |
| 2. Mr. Toshio Shimizu        | Sub-leader (JA ZENCHU)  |
| 3. Mr. Jiro Hashiguchi       | Member (JA ZENCHU)      |
| 4. Mr. Shigeri Fukamachi     | Member (JA ZENCHU)      |
| 5. Mr. Daman Prakash         | Member (JA ZENCHU)      |
| 6. Mr. Mark Van Steenwyk     | Member (JA ZENCHU)      |
| 7. Mr. Sudarsono Hajosukarto | Member (JA ZENCHU)      |
| 8. Mr. Takeshi Saito         | Member (SSC)            |
| 9. Mr. Tetsuo Mizobe         | Member (SSC)            |
| 10. Mr. Riichiro Kitamura    | Member (JA ZENCHU)      |
| 11. Mr. Mutsumi Gando        | Member (SSC)            |
| 12. Mr. Hiroshi Terunuma     | Coordinator (JA ZENCHU) |

#### II. Counterparts (Ministry of Cooperatives and Small Enterprises Development)

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1. Mr. A. Kadir Damanik   | Chief Counterpart |
| 2. Mr. Hari Parwant       | Counterpart       |
| 3. Ms. Tri Indratni       | Counterpart       |
| 4. Mr. Marjoko            | Counterpart       |
| 5. Ms. Fitriatun          | Counterpart       |
| 6. Mr. Faros Abdul Rahman | Counterpart       |
| 7. Mr. Hendrianto         | Counterpart       |
| 8. Mr. Zahril Rustam      | Counterpart       |
| 9. Mr. M. Haslan Yunus    | Counterpart       |
| 10. Ms. Rini Sriyanti     | Counterpart       |



## 交換レート

(1997年8月時点)

1 USドル = 2,576 ルピア

1 USドル = 119.55円

1円 = 21.547ルピア







